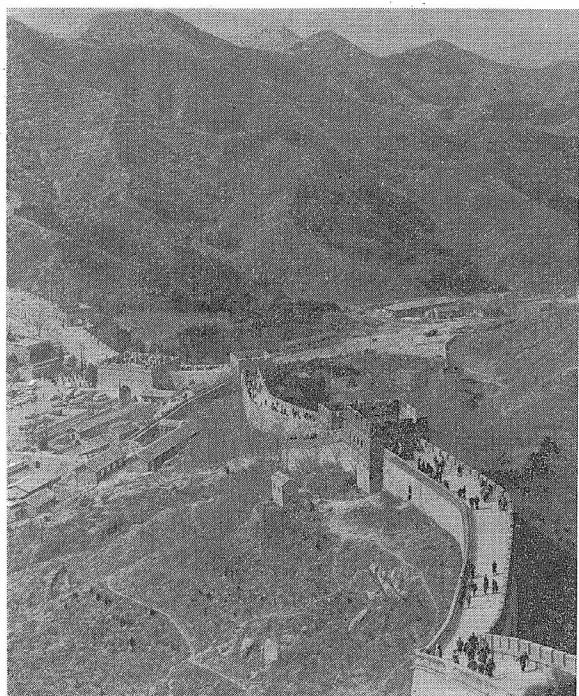


# 中日友好協会の正式招待 友愛訪中団九月派遣決定



中日友好協会会長 廖承志氏

日中条約締結問題は、日中の政府間交渉で大詰の段階を迎えていたが、この度中日友好協会（廖承志会長）から在日中国大使館を通じて、本連盟の訪中使節団を正式に招へいしたい旨の連絡が入った。本連盟では、こうした中国側の態度を重要視し、去る五日緊急中央常任委員会を開き、対応策を検討した。その結果、中国の政府招待となつたことは、中国側が本連盟を高く評価していることの表われとして卒直に受け止め、今後は日中友好に寄与するための積極的な姿勢を打ち出すべきとの意見が大勢をしめた。

先の第二回全国大会で「友愛のアジア外交を積極的に展開することを採択した趣旨の通り、従来から東南アジア諸国との友好交流を活性化する」との御持され訪中の派遣計画は、当初は来年の二月派遣で準備を進めて来たが、今度の中国側の意向を受け

急ぎの如きでの計画を変更し、この九月に実現することに決められた。経過は、鳴山邦夫相談室長が、三月に中国訪問した際、相互交流の意向を交換した。帰国後、中日友好協会にて友愛訪中団受け入れを申請した。その後、中国旅行代理店（参國）とボート手続費用（個人的経費）として受け取られた回答があり、二月派遣の準備を進めていた。

当面は、派遣の内容、構成を急ぐとしていたが、今後、中国との交流をより具体化して行くかについて対策を練ることになるが、一方日本外務省問題と連絡して、日本外務省問題のぞむべきとの意見もあり、内部調整を計りつつ中日の交流を進めて行くことになり。

（参考）派遣の内容、構成を





